

氏名	AZNIVE SANOSSIAN		
授与した学位	博	士	
専攻分野の名称	学	術	
学位授与番号	博	甲	第 1347 号
学位授与の日付	平成 7 年 3 月 25 日		
学位授与の要件	自然科学研究科生産開発科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)		
学位論文題目	林地適地・草地非適地における草地酪農の展開過程に関する研究		
論文審査委員	教授 岩間 泉,	教授 目瀬 守男,	教授 千葉 喬三
	教授 佐藤 勝紀,	教授 大崎 紘一	

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、ヨルダンをはじめ、発展途上国の固有の条件に基づく独自の近代化のスムーズな実現のモデルとしてアジア地域の唯一の先進国、日本における草地酪農の展開過程を整理している。

1 章においては時間空間論的接近により、自然の土地の展開と分化のあり方を整理し、日本が一義的には、その位置条件により林地適地・草地非適地となることを論証している。

2 章においては、林地適地・草地非適地の日本において、地形、地質条件により、準草地適地が成立し、この準適地が、固有の維持管理利用システムの下に入会草地として、歴史的に維持されてきたことを、論証している。

3 章においては、ヨーロッパ起源の草地酪農が、入会草地の再編により、準草地適地性に適応した、経営環境、産地技術、産地システムを創造しえた地域に導入、定着、展開していることを論証している。

終章ではこれらを要約的に概括し、草地酪農の日本における展望を示している。

## 論文審査結果の要旨

本論文は、時間空間論的接近により、自然の土地の適地性、準適地性を整序し、林地適地・草地非適地である日本における準草地適地に、ヨーロッパ起源の草地酪農が導入され、これが日本型草地酪農に転換され、産地として確立していく展開過程を、岡山県蒜山高原地域を対象として解明している。

主要な解明点は以下のようである。

1 農業＝土地利用は自然の土地に規定されるが、自然の土地は地球上の位置条件によって、太陽エネルギーと水との態様が偏倚するために、固有の性格を有し、ユーラシア大陸で見ると、ヨーロッパは亜草地適地、西南アジアはサバク適地、中央アジアは草地適地、モンスーンアジアは林地適地となる。この自然の土地と対応して草地のあり方をみると、西南アジア、中央アジアは自然草地が成立し、これと対応して遊牧利用が形成されている。ヨーロッパとモンスーンアジアは人為的草地となる。前者は亜草地を草地に転換して、これを草地畜産として個別利用している。後者は自然林地を草地に転換し、草肥として水田と結合し、集団利用している。

2 林地適地は、草地非適地になる。ここにおける草地賦存の構造を日本についてみると、位置条件によって一義的に規定される林地適地性が、地形、地質条件により二義的に偏倚し、準草地適地性が局地的に生じる。固有の火山性岩石に基づく黒ボク土壌が準草地適地性の基盤をなし、この上に入会草地が、一定の面積、形成維持されている。

3 戦後、和牛と結合していた入会草地利用の低下が生じ、草地酪農による入会草地の再編が図られた岡山県蒜山地域で、草地酪農産地が形成された。これは県が公共投資を推進し、酪農大学校が日本型草地酪農技術を作り、蒜山酪農協が差別商品化のシステムとこの利益を酪農家に還元するシステムを作り、日本型草地酪農家が形成されえたからであることを解明している。

以上、本論文は創造的方法論により、地域固有の準適地性に対応する土地利用の展開メカニズムを実証的に明らかにしており、学術博士論文として適当であると判断する。